

令和3年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補**・県単

事業名	畑地帯総合整備事業（国補）		事業箇所	笛吹市御坂町大野寺	地区名	大野寺	事業主体	山梨県
(1) 事業着手年度	H11年度	(2) 事業期間	H11年度～H28年度	(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	1,467百万円	
(5) 事業着手時点の課題・背景				(8) 事業位置図等				
<p>本地区は甲府盆地の南東部に位置し、もも・ぶどうを基幹作物とした農業が営まれている県内有数の果樹地帯である。</p> <p>しかしながら、本地区内の水路は狭小な断面であるため、溢水等の被害が生じていた。また、農道は幅員が狭く、農耕車のすれ違いが困難で、通作に支障をきたしており、集落間の交通アクセスも悪く、流通の拠点となる共選所への運搬にも時間を要していた。さらに、ほ場が狭小・不整形のため、栽培、出荷などの作業労力の負担が大きく効率性が悪いことから、後継者や担い手の確保に不安を抱えていた。</p> <p>このため、区画整理及び農道、用排水路の整備を行い、農作業の効率化・省力化など、営農条件を改善することで、持続的な果樹産地の維持、発展に取り組むことを目的として事業を実施した。</p>								
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果								
<input type="checkbox"/> 主要目標（事前評価未実施） <ul style="list-style-type: none"> 農業生産力の向上 								
<input type="checkbox"/> 副次目標 <ul style="list-style-type: none"> 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 農業用排水能力の向上 								
<input type="checkbox"/> 副次効果 <ul style="list-style-type: none"> 果樹園景観の保全 								
(7) 整備内容（目標達成の方法）								
事業量 <ul style="list-style-type: none"> 用排水路 2路線 L=554m 農道 幹線道路 1路線 L=868m 支線道路 11路線 L=3,314m 区画整理 5箇所 A=6.9ha 集落防災安全施設（排水工） 1路線 L=447m 								
				出典：国土地理院地図 八代町奈良原				

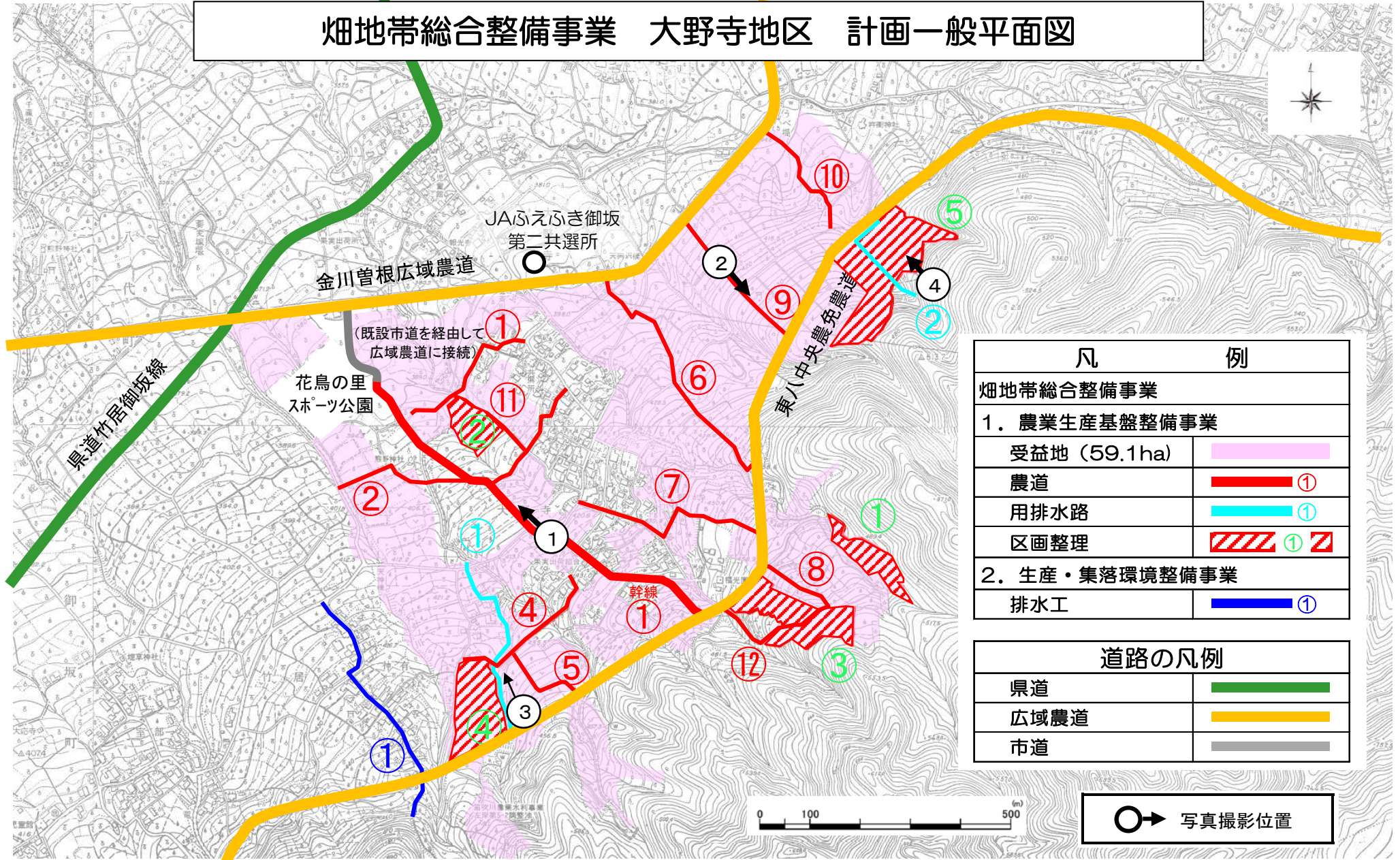
2.評価シート（1）

<p>（1）事業貢献度 〈(良)・不良〉</p> <p>（理由） 当該地区において、区画整理及び農道、用排水路が整備されたことにより、農作物の生産性及び品質が向上した。また、農業者の維持管理の労力が軽減されるなど、営農条件が改善され、果樹農業の振興に大きく寄与している。</p> <p>①主要目標 農業生産力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:30%;">指標</th> <th style="width:35%;">事業着手時点数値等</th> <th style="width:35%;">事後評価時点数値等</th> </tr> <tr> <td>面積当たり農業所得増加額</td> <td>784千円/ha ※1</td> <td>761千円/ha</td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価 ・農業所得の増加額が評価基準値405千円/haを上回っている。 （区画整理などの生産基盤整備の実施により、農作業効率やもも・ぶどうを中心とした農作物の品質が向上したことにより農業所得が増額となり、安定した果樹生産の振興につながっている。） ※1 評価指標を当時設定していなかったため、今回算出</p> <p>②副次目標 集落間・小規模拠点へのアクセス向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:30%;">指標</th> <th style="width:35%;">事業着手時点数値等</th> <th style="width:35%;">事後評価時点数値等</th> </tr> <tr> <td>全幅員4.0m以上道路延長率</td> <td>0%</td> <td>93.6% ※1 (延長L=3,916m)</td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価 ※1 幅員4.0m以上の道路延長率 93.6% ≥ 81.8%（基準値）</p> <p style="text-align:center;">農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:30%;">指標</th> <th style="width:35%;">事業着手時点数値等</th> <th style="width:35%;">事後評価時点数値等</th> </tr> <tr> <td>施設老朽度</td> <td>1.70 ※2 ※3</td> <td>0.47 ※4</td> </tr> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>1.61 ※2 ※5</td> <td>1.61 ※6</td> </tr> </table> <p>・施設整備により老朽度は改善され、耐用年数に対して評価基準値1.0以下を満たしている。 ※2 評価指標を当時設定していなかったため、今回算出 ※3 施設老朽度 = 完成時からの経過年数(34年) ÷ 施設の耐用年数(20年) ※4 施設老朽度 = 完成時からの経過年数(14年) ÷ 施設の耐用年数(30年) ・排水能力向上率が基準値1.00を満たしている。 ※5 用排水能力向上率 = 計画排水能力(0.69m³/s) ÷ 既存用排水能力(0.43m³/s) ※6 用排水能力向上率 = 計画排水能力(0.69m³/s) ÷ 既存用排水能力(0.43m³/s)</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:20%;">項目</th> <th style="width:80%;">内容</th> </tr> <tr> <td>果樹園景観の保全</td> <td>基盤整備により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。</td> </tr> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 ・本地区で行った区画整理がモデルケースとなり農地集積の機運が高まり、新たな地域の農地集積の取り組みへとつながった。</p>	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	面積当たり農業所得増加額	784千円/ha ※1	761千円/ha	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	全幅員4.0m以上道路延長率	0%	93.6% ※1 (延長L=3,916m)	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	施設老朽度	1.70 ※2 ※3	0.47 ※4	用排水能力向上率	1.61 ※2 ※5	1.61 ※6	項目	内容	果樹園景観の保全	基盤整備により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。	<p>（2）費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈(有) 無〉</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:20%;">項目</th> <th style="width:15%;">着手時点</th> <th style="width:15%;">再評価時点</th> <th style="width:50%;">事後評価時点</th> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,333 百万円</td> <td>1,575 百万円</td> <td>1,467 百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H11~H15</td> <td>H11~H27</td> <td>H11~H28</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td>H10</td> <td>H25</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>1,271 百万円</td> <td>1,536 百万円</td> <td>1,397 百万円</td> </tr> <tr> <td>建設費</td> <td>1,271 百万円</td> <td>1,536 百万円</td> <td>1,397 百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>1,280 百万円</td> <td>1,693 百万円</td> <td>1,772 百万円</td> </tr> <tr> <td>更新効果</td> <td>308 百万円</td> <td>459 百万円</td> <td>459 百万円</td> </tr> <tr> <td>品質向上効果</td> <td>305 百万円</td> <td>169 百万円</td> <td>239 百万円</td> </tr> <tr> <td>一般交通等経費節減効果</td> <td>254 百万円</td> <td>283 百万円</td> <td>283 百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>413 百万円</td> <td>782 百万円</td> <td>791 百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.0</td> <td>1.1</td> <td>1.3</td> </tr> </table> <p>その他は、維持管理費節減効果、営農経費節減効果、作物生産効果等費用便益比（B/C）は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。</p> <p>（要因変化の分析） 総事業費：区画整理において、現況地形に合わせた整備としたことにより、切り盛り等の扱い土量を抑制したことに伴う事業費の減額。</p> <p>工期：区画整理に伴う換地計画の同意に日数を要したため、事業工期の増。</p>	項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点	総事業費	1,333 百万円	1,575 百万円	1,467 百万円	工期	H11~H15	H11~H27	H11~H28	評価基準年	H10	H25	R3	経済効率性	費用	1,271 百万円	1,536 百万円	1,397 百万円	建設費	1,271 百万円	1,536 百万円	1,397 百万円	便益	1,280 百万円	1,693 百万円	1,772 百万円	更新効果	308 百万円	459 百万円	459 百万円	品質向上効果	305 百万円	169 百万円	239 百万円	一般交通等経費節減効果	254 百万円	283 百万円	283 百万円	その他	413 百万円	782 百万円	791 百万円	B/C	1.0	1.1	1.3
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																									
面積当たり農業所得増加額	784千円/ha ※1	761千円/ha																																																																									
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																									
全幅員4.0m以上道路延長率	0%	93.6% ※1 (延長L=3,916m)																																																																									
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																									
施設老朽度	1.70 ※2 ※3	0.47 ※4																																																																									
用排水能力向上率	1.61 ※2 ※5	1.61 ※6																																																																									
項目	内容																																																																										
果樹園景観の保全	基盤整備により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。																																																																										
項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点																																																																								
総事業費	1,333 百万円	1,575 百万円	1,467 百万円																																																																								
工期	H11~H15	H11~H27	H11~H28																																																																								
評価基準年	H10	H25	R3																																																																								
経済効率性	費用	1,271 百万円	1,536 百万円	1,397 百万円																																																																							
	建設費	1,271 百万円	1,536 百万円	1,397 百万円																																																																							
	便益	1,280 百万円	1,693 百万円	1,772 百万円																																																																							
	更新効果	308 百万円	459 百万円	459 百万円																																																																							
	品質向上効果	305 百万円	169 百万円	239 百万円																																																																							
	一般交通等経費節減効果	254 百万円	283 百万円	283 百万円																																																																							
	その他	413 百万円	782 百万円	791 百万円																																																																							
	B/C	1.0	1.1	1.3																																																																							
	<p>（3）事業実施による環境の変化</p> <p>①自然環境への影響 基盤整備を進めたことで荒廃農地の発生防止につながり、地域の良好な農村景観が保たれている。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果発現状況（措置を講じた場合） なし</p>																																																																										
	<p>（4）社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>①社会経済状況の変化 なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>																																																																										

評価シート(2)

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由) 農道の整備により、農作物の運搬時間が短縮されるとともに、果樹等の荷傷みが防止され品質確保が図られた。また、用排水路の整備により、湿害による農作物の品質低下が防止され、安定した農産物が生産されるとともに、豪雨時にも溢水被害がなくなった。 農道、水路の整備と併せて、農地の区画整理を実施したことで、作業効率の良いほ場が形成された。 これらの整備により、担い手の耕作面積が約16haから24ha、5割増加し、担い手農家を中心に高品質なもも、ぶどうの生産が維持されており、見込んでいた事業効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期： 年度 ・方法： 	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p> <p>なし</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p> <p>(9) その他特筆すべき事項 〈有・無〉</p> <p>なし</p>

畑地帯総合整備事業 大野寺地区 計画一般平面図



凡 例	
畑地帯総合整備事業	
1. 農業生産基盤整備事業	
受益地 (59.1ha)	
農道	①
用排水路	①
区画整理	① ②
2. 生産・集落環境整備事業	
排水工	①

道路の凡例	
県道	
広域農道	
市道	

写真撮影位置



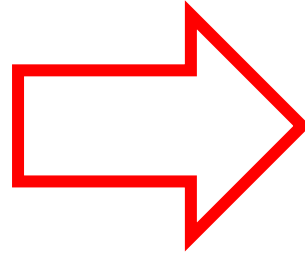
3.添付資料シート(2)

① 幹線道路



事業前

- 共選場への農作物の集出荷等において、地区内の道路幅員は狭く、すれちがいに苦慮していた。



事業後

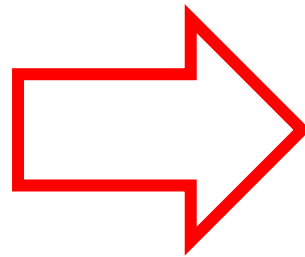
- 共選所への効率的な集出荷はもとより、広域農道等の幹線道路へ接続したことにより、地区外へ農産物の効率的な流通が可能となった。

② 支線道路



事業前

- 幅員が狭いため車両の乗り入れが困難であり、舗装が傷んでいることで荷傷みが発生していた。



事業後

- 農道整備により、通作や集出荷の効率化など営農条件が改善された。
- 舗装により荷傷みが防止され、果樹の品質確保が図られた。

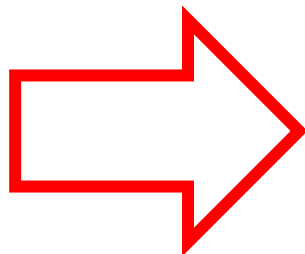
3.添付資料シート(3)

③用排水路



事業前

- 石積の崩れにより耕作土が流出し通水阻害が生じており、維持管理に多大な労力を要していた。



事業後

- 用排水路の整備により、湿害が解消され果樹の品質確保が図られた。
- 石積水路を整備することで、農地の浸食が防止され通水阻害も解消し、維持管理の労力が軽減された。

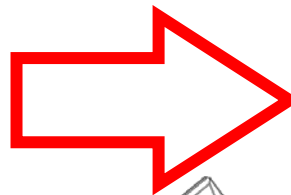
④区画整理



事業前

地区面積：A=3.5ha
筆数：85筆

- 狭小で不整形な区画のため、ほ場間の段差が多く、農作業機械の搬入等に支障があり、作業効率の低いほ場であった。



事業後

地区面積：A=3.5ha
筆数：33筆

- 農地の集団化が進み、大区画化されたことにより農作業機械の搬入が可能となり農作業の効率化が図られた。

